ひがしいず 議会だより

2022 No.308 7月号

議会HP

Enjoy!! 農業体験

P12にて取り組みを紹介

令和４年第２回定例会・・・・・・・・P2～4
一般質問・・・・・・・・・・・・・・・・・・P5～9
常任委員会の活動・・・・・・・・・・・・P10～11
かがやくまちのひと・・・・・・・・・・・・・・P12

第２回定例会

一般会計補正予算他を可決
骨格予算から 肉付け予算へ

定例会のあらまし

令和４年第２回定例会を６月８日・９日の２日間の日程で開催、岩井新町長就任後初めての定例会となりました。議案は補正予算を含む計９件が提出され、審議の結果すべて原案どおり可決しました。

Pickup ❶第４分団ポンプ車導入

2,156万円

現行車体の老朽化のため、普通免許で運転可能な消防車に入れ替えを行う。

Pickup ❷保健福祉センター維持管理事業

908万円

保健福祉センター１階にある特別浴室を改修して、新たに子育て支援等の施設を設置する。

Pickup ❸新型コロナウイルス対策事業

8,596万円

町民や賀茂郡内の住民対象の東伊豆町内宿泊割引などの誘客対策、町内事業所で使えるプレミアム商品券などを実施する。

Pickup ❹幼稚園バス整備事業

730万円

現行車両の老朽化に伴い、来年度からの新しい幼稚園の開園に合わせ、より安全性に優れた幼稚園バスを導入する。

第２回定例会の議案と各議員の賛否

○賛成　×反対
※議長は採決に加わらない

議　案　名	採決結果	掲載ページ	楠山節雄	笠井政明	※稲葉義仁	栗原京子	西塚孝男	須佐　衛	村木　脩	内山愼一	藤井廣明	鈴木　勉	定居利子	山田直志
条例の一部改正														
議案第26号　国民健康保険税条例の一部改正	可決（11：0）	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
補正予算														
議案第30号　令和４年度一般会計補正予算（第２号）	可決（11：0）	P2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第31号　令和４年度国民健康保険特別会計補正予算（第１号）	可決（11：0）	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第32号　令和４年度風力発電事業特別会計補正予算（第１号）	可決（9：2）	—	○	○	—	○	○	×	○	○	×	○	○	○
そ の 他														
議案第27号　町営稲取海浜プール指定管理者の指定	可決（11：0）	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第28号　熱川しおかぜ広場指定管理者の指定	可決（11：0）	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第29号　財産取得について（第４分団ポンプ車）	可決（11：0）	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
諮問第１号　人権擁護委員候補者の推薦	可決（11：0）	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同 意 案														
同意案第11号　固定資産評価審査委員会委員の選任	可決（11：0）	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○

議案第32号　令和４年度風力発電事業特別会計補正予算

藤井 廣明（ふじい ひろあき）議員

反対です

風力発電施設については、譲渡契約が結ばれているので、当町から所有は離れている。当町の所有物でないものに町税を出費するものは、不当と考える。

討論

笠井 政明（かさい まさあき）議員

賛成です

譲渡契約が結ばれているが、風車の所有権は現在当町にあり、管理責任は東伊豆町にある。また、メンテナンス費用についてはGPSSホールディングス株式会社（譲渡先民間企業）が負担するため、町税からの出費ではない。

第２回定例会　一般質問

一般質問

議員が町の行財政全般にわたって執行機関に疑問点をただし、所信の表明をもとめること。

楠山　節雄　議員
- ■町長の政治姿勢について
- ■行政運営について

鈴木　勉　議員
- ■当町におけるデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の取り組みについて
- ■通学路の安全確保について

須佐　衛　議員
- ■町長の政治姿勢について
- ■観光地としての課題について
- ■幼稚園の統合について

内山　愼一　議員
- ■町長の政治姿勢について

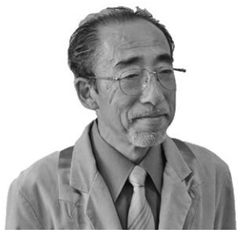
藤井　廣明　議員
- ■事業継承した風力発電事業について

栗原　京子　議員
- ■地域包括支援センターについて
- ■高齢者の移動支援について

西塚　孝男　議員
- ■消防団の体制について
- ■幼稚園統合、小中一貫教育について
- ■ふるさと納税について

山田　直志　議員
- ■地方自治について
- ■地方創生臨時交付金について
- ■白田川橋老朽化への対応について

東伊豆町議会 YouTube チャンネル



楠山（くすやま）　節雄（せつお）議員

Q 町長への転身を決意した理由は

A 以前からの縁と現場との距離感が決め手

有料化により新しいごみ袋での排出

Q なぜ東伊豆町長への転身を決意したのか。

A 国政に関わる以前からの縁や熱心な支援者の思い、また現場に近い政治に魅力を感じていた。さらに、コロナ禍で地方自治の重要性を認識しての決断となった。

Q 国・県との対応をどう図るか。

A 財源の確保を含め、国・県との連携は重要と認識をしている。県とは既に知事や副知事との面談も行い確執はないと感じている。また、出先機関とも面談しており、今後も国・県との関係を深めていく。

Q 職員の健康管理の認識は。

A 明るい職場づくりに努めるとともに、全職員の健康状態を把握する。

Q 旧大川小学校等の施設活用は。

A 町づくりの全体構想の中で施設管理を検討していくが、利活用の検討委員会の立ち上げも視野に入れていく。

Q ごみの有料化後の現状は。

A 一部で不適正排出があるものの、おおむね適正との認識だ。問題のある箇所においては監視カメラの設置も視野に入れる。

Q 国旗掲揚の推進のお考えは。

A 主旨は理解する。住宅環境等の状況にもよるが、可能な方は掲揚していただければと思う。

鈴木　勉（すずき　つとむ）議員

Q 町の将来像は

A 豊かで多様性に富んだ町にしたい

Q 東伊豆町への思いは。

A 町の皆さんとは16年以上前から絆を強めてきた。皆さんの熱い思いを受け、行政は規模ではなくやりがいが一番、現場に近い場所で頑張りたいとの思いである。

Q 東伊豆町の課題は。

A 人口が減っているのが問題。子どもが減り地域の産業が継承できなくなり、次世代により良いバトンが渡せなくなる。

Q これからの町づくりは。

A 子育ての支援、移住定住の促進、一次産業の振興に力を入れたい。

Q 掲げる政策は。

A ①安全安心の確保、②郷土愛の醸成、③稼ぐチカラの復活、④時代変化への順応を重視したい。

Q 行政運営はどう進めるのか。

A 行政と議会は車の両輪、議会と対等な立場に立ち、互いに尊重していきたい。また多くの町民、職員等広く人材を求めて公正な意見に基づく政治を行っていく所存である。

一次産業の振興に力を入れたい

Q DXにおける行政サービス向上は

A まずは高齢者スマートフォン購入補助金を行う

笠井　政明（かさい　まさあき）議員

Q デジタル技術を活用した庁舎内改善は。

A 庁舎内のＷｉＦｉ環境の整備等が終了し今年度は業務用チャットの導入を予定している。

Q 業務改善において過去データのアーカイブ化の検討は。

A マンパワーの部分も含めて検討していく。

Q デジタル技術を活用した住民への行政サービスの向上は。

A 今年度、町公式ＬＩＮＥを立ち上げ、行政情報配信の充実に取り組む。また、多くの方が恩恵を受けられるよう7月から高齢者のスマートフォン購入補助金を交付する。

Q デジタル機器にあまり強くない方々への指導、利用促進は。

A 民間通信業者のサービスで教室等あると聞いている。足りない部分があれば対応していく。

Q デジタル技術を活用した観光、一次産業の取り組みは。

A 観光関係は、昨年度ワーケーション補助金等を行った。農業、漁業分野でも、今後は専門家を交えて可能性を探ろうと考えている。

町が始めた公式 LINE

そのほかの質問

Q 通学路の安全確保は

A 安全対策は改善できるところから策を講じていく

※ DX（デジタルトランスフォーメーション）
デジタル技術を用いることで、生活やビジネスが変容していくこと

須佐（すさ）　衛（まもる）議員

Q 統合後の幼稚園バスは

A 安全装備を整えた車両に買い替える

Q バスの性能が良くなっても人的サポートは大切だが。

A 現在も教諭が同乗して安全面に配慮しており、今後も続けていく。

Q 熱川幼稚園の園庭側にサッシを張りめぐらせる案があると聞くが。

A 砂ぼこりや雨の吹き込みが問題になっており、改善を図る。

Q 教育環境の整備に向け、園庭の芝生化を提案したい。清水町では町立の４園すべての園庭を芝生化し、地域ボランティアが協力している。

A 管理が大変と聞くが、統合準備会で話し合っていきたい。

Q 県が教育旅行に力を入れているが、当町の取り組みは。

A 観光協会など民間の体制が整えば支援していきたい。

芝がきれいな清水町立幼稚園は地域の人が係わり管理

そのほかの質問

Q 旧大川グランドホテルの現状は。特定空き家の認定はなされたか

A 認定しておらず行政代執行の選択肢にはなっていない。町の玄関口であるため、公共性の高い利用が望ましいとは感じている

Q 女性の管理職の登用がこれまでないが今後は

A 性別が理由で管理職登用が阻まれることはない

内山（うちやま）　愼一（しんいち）議員

Q 経済立て直しのお考えは

A まちづくりの視点で振興したい

Q 農業・漁業では、後継者や雇用の問題、資材や重油価格等の高騰が生活を圧迫している。将来を見据えた規模の拡大、近代化のための基盤整備が必要では。

A 基盤整備は事業者からの申請に応じ、国・県の補助金を活用して整備を行っていく。ハウス栽培施設などの資材や農業用機械の経費補助も対象となる。

Q 観光業では街並みを活かした温泉場の修景整備並びに激減している入湯客の回復の方策は。

A 景観計画を策定しているので、それに沿った整備を行っていく。宿泊客の回復はまず宿泊クーポンやインバウンド需要への対応を進める。

Q 商店街の形成が難しく、商店の消滅危機が迫っているが対策は。

A 商店街の空き店舗対策、新規参入支援事業を行い、当面は、プレミアム商品券事業などで店舗数の維持を考えている。

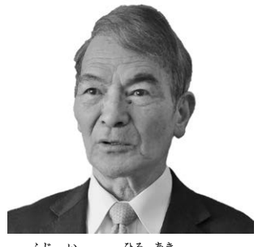
Q 建設関連業では、民間・公共事業や老朽化した施設、水道、橋梁等へのインフラ整備での需給喚起の考えは。

A 住宅リフォーム制度の活用や公共事業は町内事業者に発注して育成していく。老朽化した施設や水道などのインフラ整備は財政と考え合せながら整備したい。

将来を見据えた基盤整備を

Q なぜ風車は撤去されないのか

A 民間の事業実施が確定していないため



藤井　廣明（ふじい　ひろあき）議員

Q 民間に譲渡した風車の維持管理費をなぜ町が負担するのか。

A 事業実施が確定するまでは風車の所有権は町にあるため。但し4月以降の維持管理費については先方に負担いただくことで合意しており、町はその費用を一時的に立て替えている形となる。

Q 民間事業者とどのような契約・協定を結んでいるのか。

撤去が進まない旧町営風車

A 「動産譲渡契約書」、「地上権設定契約書」、「匿名組合契約書」及び「風力発電事業及び地域の生活環境保全に関する協定」を締結している。

Q 土地の貸付代金を原資とする出資はなされたか。

A 出資については5月25日に執行済みである。

Q 実施の可否が確定していない事業に町が出資したのか。

A 事業実施は銀行からの融資実行が前提であり、その審査のために必要な準備作業の中に町の出資も含まれている。

Q 今後の事業見通しは。

A 世界的な風車需要の高まりや円安の進行、資源高など調達価格が高騰し、事業環境は厳しくなっているものの、事業者は事業実施に向けた準備を進めていると伺っている。

Q 高齢者の移動手段はどうお考えか

A 地区サロンの送迎から開始し支援を広げたい

栗原　京子（くりはら　きょうこ）議員

Q 地区サロンに通っている人でも移動支援サービスを知らない人もいる。更なる周知が必要では。

A 住民への更なる周知や、担い手の発掘は必要と考える。

Q 担い手のすそ野をどう広げていくのかお考えは。

A 6月の移動支援セミナーには20名ほどの応募があった。そこから広げていきたい。

Q 各区からの声掛けをお願いしたり、またこれからは地域の課題を自分事と考えるような意識の醸成も必要では。

A 地域が抱える様々な課題の解決に必要な視点と考える。整理して検討したい。

Q 移動支援にとどまらず、今後ちょっとした家事支援など、高齢者の困りごとへ対応していくお考えは。

A 社会福祉協議会で生活支援ボランティアの募集をかける計画をしている。担い手が集まった地域からサービスを拡充していきたい。

利用者のニーズにあった支援体制を

そのほかの質問

Q フレイル予防のため、高齢者と幼稚園児との会食型の学校給食の提供はできないか

A 縦割り行政の難しさはあるが、子ども達を地域で育てるという観点からも進めていきたい

Q ふるさと納税の対策は

A 庁内から希望者を募りPTを発足させた

西塚　孝男（にしづか　たかお）議員

Q 町長はふるさと納税に力を入れていきたいとのことだが、どのような対策を講じるのか。

ふるさと納税 PT 会議の様子

A ふるさと納税の拡大に向け、庁内より所属部署にとらわれず希望者を募ってプロジェクトチーム（以下、PT）を発足させたところである。

Q 一次産業の従事者が記念品を出品しやすいように、集荷や梱包・発送等の仕組みを考えてみたらどうか。

A 町で送料を負担することに加え、配送連携事業を始めている。これは寄付者の住所・氏名等が記載された配達伝票が事業者に届くので、事業者の負担はかなり軽減されると聞いている。

Q 東伊豆町の記念品の8割を宿泊施設の利用券が占めているのであれば、それと一次産業の物品をセットで訴求すれば良いのではないか。

A 考え方は面白い。他にもいろいろな意見を伺い、PTに伝え、チーム内でより良い仕組みをつくれるようサポートしていきたい。

そのほかの質問

Q 非火災連絡が多いと聞くが理由は何か

A 原因の多くが火災報知器の誤作動であり、対策を考えたい

Q 地方自治についての考えは

A 町民の意思を反映し地域を良くしていくこと

山田　直志（やまだ　なおし）議員

Q 国と地方自治体における相違とは。

答弁する町長

A 国は議院内閣制でその存立は議会によっており、地方は町民が直接選挙で議員と首長を選び運営される点が異なる。

Q 町は国債を発行できないし、消費税や酒税など、税率を上げられない。このように国と町では財政の権限に大きな違いがあると考えるが。

A 自由度が少ないということは実感している。税金をしっかり適正に使うことが大切だと感じている。

Q 地方自治で大切にしていきたいこと何か。

A 住民自治と団体自治の原則を大事にしながらも、少子高齢化など行政機関だけでは対応できないところにきている。行政、企業、地域など目標を共有し、自覚して取り組んでいく協働・共生ということが重要だと感じている。

Q 行政の行動・手法としてどのような事を重視するか。

A 人々の声を大事にして、優れた意見を取り入れて政治を行うという精神を基本にして、広く人材を求め公正な意見に基づく政治を行うことが重要だと考えている。

Q 地方自治では、情報公開、説明責任、合意形成を大事にすべきと考えるが。

A 協働のまちづくりの重要なポイントに含まれていると考える。

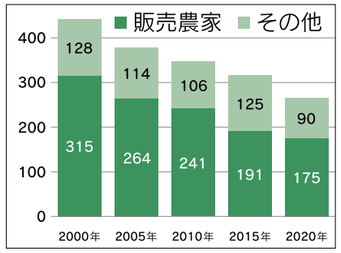
事業継承・後継者問題について所管事務調査を実施 －総務経済常任委員会－

総務経済常任委員会では、コロナ禍で疲弊する町内産業を調査してきましたが、特に農漁業の事業継承・後継者問題に着目して所管事務調査を実施しました。

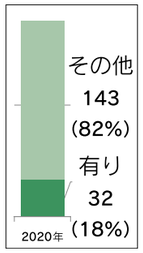
報告書はこちら

農業・漁業の現状

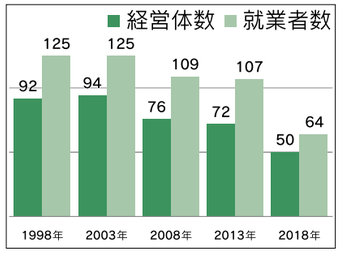
〔農家数の推移〕



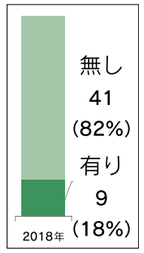
（後継者の有無）



〔漁業者数の推移〕



（後継者の有無）



※販売農家：30ａ以上耕作し販売額が年間50万円以上の農家

◆農家はこの20年間で40%以上減少。
◆65歳以上の方が192人（62.5%）を構成。
◆後継者を確保している農家は32軒（18.3%）にとどまる。

◆漁業経営体もこの20年間で船数、就業者がほぼ半減。
◆後継者を確保している経営体は9件（18.0%）となっている。

農業関係者との意見交換会

漁業関係者との意見交換会

今後の検討課題

①農業関係
- ◆労働力の確保
- ◆活用可能な農地情報の可視化
- ◆園地内の整備補修への支援
- ◆農地の圃場整備促進

②漁業関係
- ◆食害対策に対する支援
- ◆漁網規格の拡大統一化
- ◆漁業への支援拡大
- ◆海洋資源の有効活用
- ◆生産体制の維持・近代化の推進

③農漁業に共通する事項
- ◆燃料や資機材、肥飼料等の高騰に対する支援
- ◆ふるさと納税やネット販売等、販路開拓・拡大
- ◆一次産品の紹介や仕事自体のアピール強化
- ◆持続可能な地域産業としての取り組み強化

第１回臨時会

副町長の再任を全会一致で可決

令和４年第１回臨時会を５月20日に開催。議案は条例改正２件、専決処分の承認２件、副町長の選任を含む計５件が提出され、審議の結果すべて原案どおり可決しました。

Pickup 議員報酬に関する条例の一部改正

人事院勧告に準じ、期末手当の支給率の引き下げを行う。12月の期末手当を100分の180から100分の15引き下げ、100分の165に変更する。

議案名	採決結果	掲載ページ	楠山節雄	笠井政明	※稲葉義仁	栗原京子	西塚孝男	須佐衛	村木脩	内山愼一	藤井廣明	鈴木勉	定居利子	山田直志
条例の一部改正等														
発議第２号　東伊豆町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正	可決（9：2）	—	○	○	—	○	○	○	×	×	○	○	○	○
議案第24号　東伊豆町職員の給与に関する条例の一部改正	可決（11：0）	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
専決承認														
専決承認第２号　東伊豆町税賦課徴収条例等の一部改正	可決（11：0）	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
専決承認第３号　令和４年度東伊豆町一般会計補正予算（第１号）	可決（11：0）	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人事案件														
議案第25号　東伊豆町副町長の選任について	可決（11：0）	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○

学校のあり方についてヒアリングを実施 －文教厚生常任委員会－

会議の様子

これからの学校のあり方について、町長・教育委員会にヒアリングを行いました。

今後は、学校教育環境整備委員会の答申を待ちながら、最善な方法などについて調査、研究を継続します。

加えて、今後は梅雨や台風シーズンを控えることもあり、避難所運営など防災面についても調査研究を行っていく予定です。

ひがしいず 議会だより
令和4年7月20日発行
【発　行】東伊豆町議会
【責任者】議長　稲葉義仁
【住　所】〒413-0411 静岡県賀茂郡東伊豆町稲取3354番地
【編　集】議会広報編集委員会
【TEL・FAX】0557（95）6307

かがやく まちのひと Vol.10

２度の留学経験を持ち、現在は地域おこし協力隊員として、主にワーケーション事業や移住定住事業などに取り組む樋口歩実さんを取材しました。

地域おこし協力隊員
樋口（ひぐち）　歩実（あゆみ）さん

―自己紹介をお願いします。

山口県の出身で、両親は教師の家庭で育ちました。当時は特にやりたいこともなく、先生に背中を押されて大学は経営学部に進みました。在学中にアメリカのサンディエゴに留学し、語学やマーケティングを学びながらコミュニティカレッジに通っていました。世界中から人が集まる中、永住権を取得するために訪れた学生、バックパッカーとして旅するパイロットやエンジニアとの出会いで、色々な価値観や考えがあることに気づかされました。大学の卒業後はイギリスで飲食店の経営について学び、現在はその経験を活かし「CREPE&DRINK TATENOICHI」の運営に携わっています。

TATENOUCHI にて店長と

―移住者と地元の人の交流にも取り組んでいますね。

最近、力を入れて取り組んでいるのが農家のお手伝い。東伊豆町はフルーツや花の栽培が盛んなので、「知りたい」気持ちを持ちながら農家の手助けになればと、他の移住者と共に農業体験ボランティアに参加しています。（表紙写真参照）

花農家でのカーネーション苗抜き作業やキウイ農家での受粉作業を手伝い、受粉させた木に名札を付けて、収穫を計画しています。

今後も農業を勉強したいし、地域との関係性も築いていきたい。季節に合わせて色々な体験ができたらいいなと思っています。

―これまでの経験から伝えたいことはありますか。

留学はすごいと言われることもありますが、自分ではやりたいことをやってきただけです。子どもでも大人でも、やりたいことを諦めないでほしいと思います。

編集後記

NHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」が面白い。三谷幸喜の演出は現代語で話させ、ギャグもある。舞台が伊豆から始まり近隣市町は賑やかだ。ところで、頼朝を支える北条一族と後世の北条早雲から始まる一族5代は全くの別物だ。後北条と呼ばれるようだが、なんで同じ伊豆なんだろう。鎌倉殿も3代と続かず、北条義時や政子に実権が移っていく。儚いものだ。だが中国の秦の始皇帝は6国を統一し、強大な国を造ったが僅か20年足らずで滅んでいる。哀れを感じるが歴史は面白い。（藤井）

議会広報編集委員会

委員長	笠井政明
副委員長	栗原京子
委員	稲葉義仁
委員	西塚孝男
委員	藤井廣明
委員	山田直志